

消防団たずね歩き

雪中の文化財防火広報訓練に灘消防団も参加

1月18日、雪の中の摩耶山天上寺でおこなわれた防火訓練に、天上寺自衛消防隊、灘消防署、防災福祉コミュニティとともに灘消防団も参加しました。摩耶山天上寺は昭和51年1月30日の火災で一度焼失しましたが、現在では大部分の伽藍が再建されています。不幸な出来事を二度と起こさぬため、気合を込めた訓練となりました。

金堂にて火災発生との想定で始まり、近くの六甲山小学校の児童たちも避難訓練で参加しました。自衛消防隊が兵庫県指定重要有形文化財の待賢門院「紺紙金字妙法蓮華經」を搬出。雪煙をもうもうと舞い上げ到着した消防のヘリコプターから隊員が降下し、負傷者を吊り上げ病院へ搬送。続く、六甲山小学校児童たちの消火器取り扱い訓練には、灘消防団も訓練指導で参加し、総合消火訓練では消防隊や自衛消防隊と協力して放水を開始。ヘリコプターも消火バケットによる散水で加わり訓練を終了しました。

●摩耶山天上寺の紹介

天上寺は、大化2(646)年、孝徳天皇の勅願を受けたインドの高僧法道仙人により開創されました。西山門右手にご神木の大きな杉があります。続く参道では、春はウグイス、夏はホトトギス、秋はヒグラシの鳴き声が響き、脇に並ぶモミジは初夏には新緑、晩秋には

紅葉が鮮やかです。参道を登った「若ガエルさま」の前では5月には珍しいハンカチの木に花が咲き、6月の終わり頃からは沙羅の花が咲き始めます。

堅牢な造りの鐘楼には、四季折々33種の花が鑄込まれた「華曼荼羅の鐘」が吊り下げられ、除夜の鐘は参拝者もつけるそうです。金輪堂のご本尊は、全国的に珍しい一字金輪さま。併設の授戒堂には四面大日如来と八日大師が、永代位牌堂には阿弥陀如来さまが、また全国唯一の摩耶夫人堂にはお釈迦さまのご生母の摩耶夫人さまと、梵天・帝釈天の両脇侍がまつられています。南側の天空の大舞台から、晴れた日には淡路島や明石海峡大橋、空気の澄んだ日には遥かに小豆島まで望めます。

(灘消防団 団長 伊藤眞彦)



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

